

町田市のごみの現状と今後の方向性について

「町田市一般廃棄物資源化基本計画」（2011年4月）

基本方針

- 1 家庭から出る生ごみの100%の資源化を推進します。
- 2 プラスチックごみの減量・資源化を推進します。
- 3 市民、事業者、行政の協働を進めます。
- 4 次世代型のリサイクル施設を整備し、ごみ処理の円滑な運営を進めます。
- 5 ごみの発生抑制と排出抑制の取り組みを進めます。

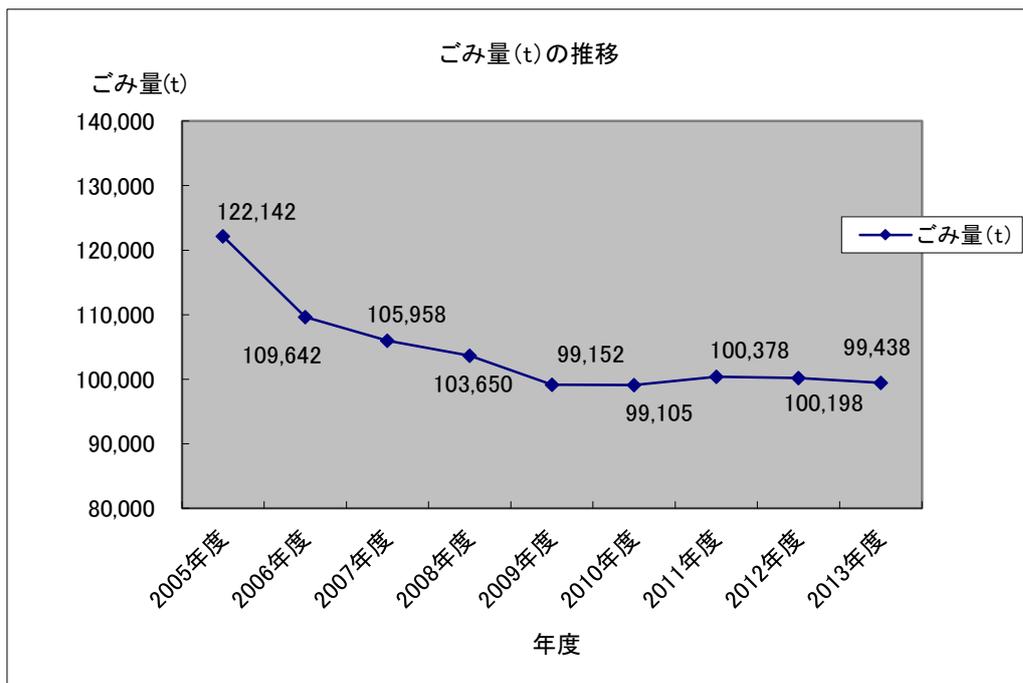
全体目標

ごみとして処理する量を40%削減します。

2020年までに市全体のごみを2009年度比40%削減（約99,000トンから約66,000トンへ）することを目標に取り組みを進めています。

○町田市のごみ処理状況

2013年度のごみ量は、9万9,438トンでした。前年度と比べると760トン減少しています。目標とする40%を削減するためには、1人あたり1日70g減量をしていく必要があります。



町田市ごみ処理状況

単位:t/年

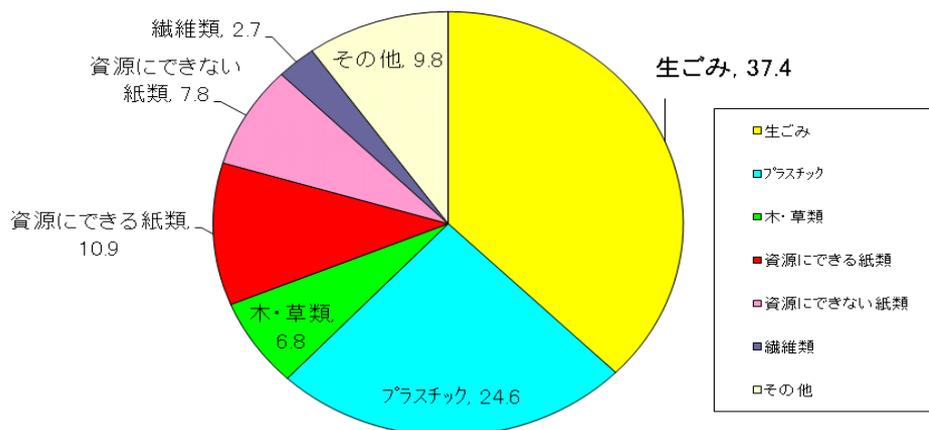
年度	2009	2010	2011	2012	2013	前年度比
人口(10月1日現在)	422,112	424,669	425,173	425,155	426,410	
可燃	87,767	87,680	88,520	88,726	88,058	-0.80%
不燃	5,853	6,524	6,774	6,592	6,551	-0.60%
粗大	5,266	4,642	4,925	4,739	4,676	-1.30%
有害	266	259	157	141	153	8.50%
土砂・瓦礫	0	0	0	0	0	0.00%
計	99,152	99,105	100,376	100,198	99,438	-0.80%

○2013 年度実施の組成調査の結果

市では分別の状況を確認し、今後の施策の資料とするため、毎年「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」の中身を調べています。

[燃やせるごみ袋の中身]

2013年 可燃ごみ組成比率グラフ



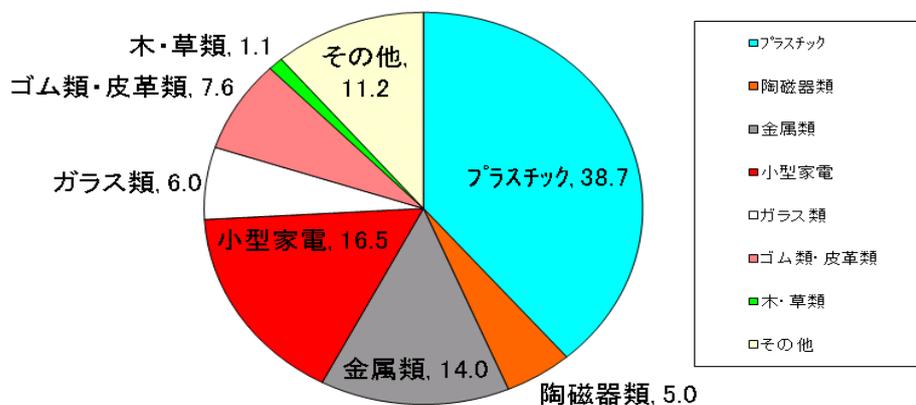
「燃やせるごみ」のうち、割合の多かったものをピックアップすると、生ごみが37.4%、プラスチックが24.6%、資源にできる紙が10.9%ありました。

資源にできる紙類の分別

燃やせるごみにはたくさんの「資源化できる紙類」が混入しており、推定で6,963 トンを焼却している計算になります。1人あたり年間16kg、ごみ袋に換算すると1袋につき約156g入っていることになります。

[燃やせないごみ袋の中身]

2013年 不燃ごみ組成比率グラフ



「燃やせないごみ」のうちリサイクル広場に関連する項目をピックアップすると陶磁器類が5%、ガラス類が6%、小型家電が16.5%、金属類が14%（カンが1%）となっています。全体で見ると、これらの品目が燃やせないごみの41.5%を占めていました。

これらの、組成調査の結果から、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」ともに、

「プラスチック類が多く含まれている」

「資源としてリサイクルできるものが多くふくまれている」

ことがわかりました。

○リサイクル広場の推進

市が運営しているリサイクル広場	6か所
地域と協働した広場	7か所
商店街と協働した広場	2か所

町内会・自治会、商店街と協働したリサイクル広場を拡大していきます。